

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	各部構法小委員会	主 査 名：小見 康夫 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (構法計画運営委員会)	委員長名：大原 一興 主 査 名：角田 誠
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2016 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>本小委員会は、改修設計・施工における各部構法の情報収集・事例研究を通じ、①それらが有する設計・施工情報を整理するとともに、②情報が広く共有化・活用されるための「参加型ナレッジベース」の構築を目指し、そのプラットフォームづくりを行うことを主な目的とする。</p> <p>新築工事に比べて制約条件の大きい改修工事では、一般解よりも特殊解の色合いが濃く、それらを整然と体系化することは困難であり、また硬直的な体系化は意味をもたない。むしろそれらの特殊解に内包されるエッセンスを各自が解釈・利用し、自らも情報を提供できるような「参加型ナレッジベース」が有効と考えられる。そのためのプラットフォームのあり方について議論する。</p> <p><b>【2014 年度】</b> 上記システムをブラウザベースで試作・試用評価を行う。</p> <p><b>【2015 年度】</b> 試作システムの実装・公表及び取りまとめる。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：小見康夫 (東京都市大学) 幹事：池尻 隆史 (近畿大学) 幹事：信太 洋行 (東京都市大学) 委員 南 一誠 (芝浦工業大学) 角田 誠 (首都大学東京) 名取 発 (東洋大学) 熊谷 亮平 (東京理科大) 岡路 明良 (鹿島建設株式会社) 奥村 誠一 (青木茂建築工房) 権藤 智之 (首都大学東京) 相澤 佳代子 (株式会社リビタ) 加戸 啓太 (立命館大学) 齋藤 茂樹 (一般財団法人ベターリビング) 前島 彩子 (東京理科大学) 小久保 彰 (公益財団法人 建築技術教育普及センター)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home">https://sites.google.com/site/kakubukouhou/home</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	<p>建築計画部門研究協議会 「コンピューテーショナルデザインは構法計画を再定義するか」 参加者数 155名</p>
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 既存改修構法のナレッジベース化のプラットフォームの検討・試作 →まずは簡易版として委員会メンバーが保有する「(改修) 構法写真」を、ブラウザを介して共有できる写真データベースを試作し、その課題を抽出した。具体的には、公開レベルの設定と写真利用の実情(スライド作成時等)のマッチングが課題としてあがった。</p> <p>2. 日本建築学会大会における研究協議会 →オープンビルディング小委員会と共同で企画・実施し、委員会メンバーによる協議会資料を作成した。協議会での討論では、コンピューテーショナル・デザインの進展が、従来の構法計画における生産技術の「限界」や職域などの「境界」を突破する可能性が示された。</p> <p>3. 現場見学や講演会等の開催 →本年度は、現場見学会・講演会共に開催されなかった。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 既存改修構法のナレッジベースを運用するためのサーバーを確保する。 2. 本年度の大会で議論されたテーマを更に深化させるために、来年度の大会においてPD開催を予定している。その内容とメンバーの選出を検討する。 3. 委員会メンバーの協力を仰ぎ、見学会の機会を創出する。</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。